

事業報告

(平成 23 年 2 月 1 日から)
(平成 24 年 1 月 31 日まで)

1. 会社の現況に関する事項

(1) 事業の経過及び成果

今期はクラブとして J1 残留を目標に挙げ、新監督に三浦氏を招へいしました。

しかし、思うような結果を出すことができず、シーズン途中での外国籍選手補強や、クラブ史上初の監督交代を行いました。1 年での J2 降格になってしまいました。

また、ホームゲームにおいても東日本大震災や週末の悪天候の影響などにより平均観客も 12,106 人と J1 昇格にもかかわらず昨年平均より 300 人減少してしまいました。しかし、平均観客動員数は人口 1,000 人当たりでは全国でも一、二を誇る数字には変わりありません。

クラブとして今年も積極的に進めてまいりましたのは、各ホームタウンとの連携による地域貢献活動であります。具体的な活動としては、様々なイベントへの参加や「ヴァンタス実育山梨」と名付けたサッカー教室、講演会、介護予防事業、小学校巡回スポーツ教室、食育活動を実施した結果、総計 485 回と、昨年度の実績を上回ることが出来ました。

地域密着の育成型クラブを目指すヴァンフォーレ甲府は、ホームタウンの生活に深く根ざし地域に新しい喜びをもたらすクラブを目標と考え一層努力する所存であります。

今後は、城福新監督のもと、時間をかけてのチーム作りを基本として早期の J1 復帰を目指し、そして定着できるチーム作りを考えております。山梨県出身選手（柏選手、堀米選手など）の活躍に代表されるような育成型クラブを目指していきたいと考えております。

経営面では、J1 再昇格の年ということもあり、入場料収入、広告料収入ともに前年を上回り、営業収入は約 14 億 6 千万円（前年比 137%）となりました。また当期純利益につきましても、選手報酬、選手補強費、ホームゲームの国立開催等、大幅な支出増加が予想された中、強化・運営・フロントが連携し、最低限の支出におさえることができたこともあり、約 4 千 4 百万円を計上することとなりました。この結果、再建スタート時に 4 億 5 千万円あった累積赤字が 1 億を割るまでに復活いたしました。

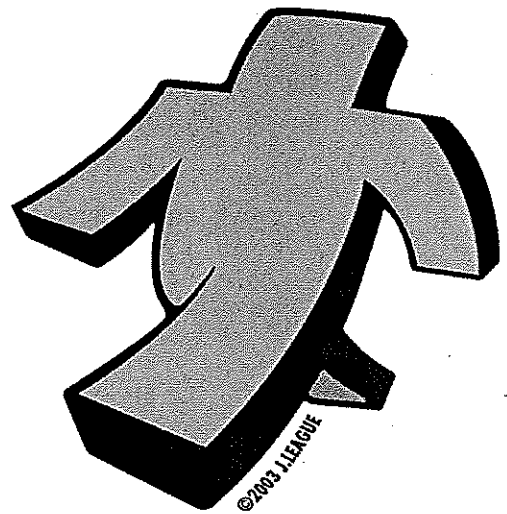
来期は J2 への降格のため、財政面においては非常に厳しいものがありますが、全社を挙げて業績の向上に努力してまいりる所存であります。

2011 Jリーグ ディビジョン1 順位表
第34節終了時点

順位	チーム	勝点	試合	勝	分	敗	得点	失点	得失点差	ホーム			アウェイ		
										勝	分	敗	勝	分	敗
1	柏レイソル	72	34	23	3	8	65	42	23	13	1	3	10	2	5
2	名古屋グランパス	71	34	21	8	5	67	36	31	11	5	1	10	3	4
3	ガンバ大阪	70	34	21	7	6	78	51	27	13	3	1	8	4	5
4	ベガルタ仙台	56	34	14	14	6	39	25	14	8	7	2	6	7	4
5	横浜F・マリノス	56	34	16	8	10	46	40	6	9	4	4	7	4	6
6	鹿島アントラーズ	50	34	13	11	10	53	40	13	7	5	5	6	6	5
7	サンフレッチェ広島	50	34	14	8	12	52	49	3	9	4	4	5	4	8
8	ジュビロ磐田	47	34	13	8	13	53	45	8	8	3	6	5	5	7
9	ヴィッセル神戸	46	34	13	7	14	44	45	-1	9	3	5	4	4	9
10	清水エスペルス	45	34	11	12	11	42	51	-9	8	4	5	3	8	6
11	川崎フロンターレ	44	34	13	5	16	52	53	-1	8	2	7	5	3	9
12	セレッソ大阪	43	34	11	10	13	67	53	14	6	4	7	5	6	6
13	大宮アルディージャ	42	34	10	12	12	38	48	-10	2	8	7	8	4	5
14	アルビレックス新潟	39	34	10	9	15	38	46	-8	6	6	5	4	3	10
15	浦和レッズ	36	34	8	12	14	36	43	-7	4	6	7	4	6	7
16	ヴァンフォーレ甲府	36	34	9	6	19	42	63	-21	5	4	8	4	2	11
17	アビスパ福岡	22	34	6	4	24	34	75	-41	4	2	11	2	2	13
18	モンテディオ山形	21	34	5	6	23	23	64	-41	3	4	10	2	2	13

Jリーグ ディビジョン1 観客動員順位表

順位	チーム	ホーム数	平均(人)	合計(人)
1	浦和レッズ	17	33,910	576,477
2	アルビレックス新潟	17	26,049	442,836
3	横浜F・マリノス	17	21,038	357,647
4	川崎フロンターレ	17	17,340	294,776
5	名古屋グランパス	17	16,741	284,590
6	ガンバ大阪	17	16,411	278,981
7	鹿島アントラーズ	17	16,156	274,655
8	清水エスパルス	17	15,801	268,614
9	ベガルタ仙台	17	15,656	266,144
10	セレッソ大阪	17	14,145	240,465
11	ヴィッセル神戸	17	13,233	224,962
12	サンフレッチェ広島	17	13,203	224,447
13	ヴァンフォーレ甲府	17	12,106	205,808
14	柏レイソル	17	11,917	202,593
15	ジュビロ磐田	17	11,796	200,525
16	アビスパ福岡	17	10,415	177,054
17	モンテディオ山形	17	9,325	158,527
18	大宮アルディージャ	17	9,099	154,681



スポーツで、もっと、幸せな国へ。

百年構想

クラブサポーター会員数

2011クラブサポーター会員	9,033口	J1
2010クラブサポーター会員	8,568口	
2009クラブサポーター会員	8,522口	
2008クラブサポーター会員	8,693口	
2007クラブサポーター会員	9,561口	J1
2006クラブサポーター会員	9,950口	
2005クラブサポーター会員	5,771口	
2004クラブサポーター会員	6,028口	

選手、スタッフ、フロント業務一覧

項 目	2008年	2009年	2010年	2011年
イベント参加 (選手、スタッフ、マスコット)	92回	128回	142回	136回
サッカー教室	63回	49回	61回	110回
介護予防事業	17回	18回	23回	29回
小学校巡回スポーツ教室	0回	0回	14回	24回
交流活動 (施設訪問等)	19回	6回	8回	8回
講演会	4回	23回	36回	18回
関連団体行事	56回	60回	87回	89回
クラブ直轄行事	20回	31回	38回	41回
職場体験/インターンシップ	18回	7回	13回	30回
総合計	289回	322回	422回	485回

2012 シーズン目標

○ クラブサポーター会員

8,500口（前年度実績9,033口）

○ 観客動員数

12,000人（前年度実績12,106人）

○ 広告料収入

5億3,500万円（前年度実績6億3,500万円）

クラブライセンス制度について【概要】

Jリーグは2012年から「クラブライセンス制度」を導入することになった。

この制度はUEFA（欧州サッカー連盟）がチャンピオンズリーグ参加資格として導入したのが始まりでFIFAもこれを取り入れ、AFC（アジアサッカー連盟）も導入することを決定。Jリーグも2013シーズンから導入することとなった。

具体的には以下5つの基準を設け、基準充足について審査が行われる。

① 競技基準 ②施設基準 ③人事組織基準 ④法務基準 ⑤財務基準

以下、ヴァンフォーレ甲府の場合

➤ 競技基準について（基準充足済）

アカデミー・育成プログラムの充実を図る基準。現状のヴァンフォーレ甲府は基準充足。

➤ 施設基準について（要対応）

スタジアム・トレーニング施設（練習場）の保有・充実を図る基準。

A基準…達成必須。達成しなければライセンス交付されない。

B基準…達成必須。達成しない場合は制裁が科された上でライセンス交付。

◆ スタジアム

スタジアムの屋根は観客席の3分の1以上が覆われていること。（B基準）

1,000名の観客に対し様式トイレ5台、男性用小便器8台を完備すること。（B基準）

◆ トレーニング施設（練習場）

常時使用できる天然芝もしくは人工芝のピッチ1面及び屋内トレーニング施設、クラブハウスの保有。
（A基準）

➤ 人事組織基準（充足済）

◆ 社内に運営・広報・マーケティング・財務担当者などを配置すること。

➤ 法務基準（充足済）

◆ 就業規則、取締役会規則の提出（就業規則については対応済）

◆ 当該クラブの定款の提出義務など。

◆ 他クラブの経営への関与の禁止など。

➤ 財務基準（充足済）※要注意！

◆ 3期連続で当期純損失を計上した場合はライセンス付与されない。

◆ 債務超過はライセンス付与されない。

※2014年決算が2015年に審査され2016年のライセンス交付となる。つまり2014年決算から審査開始となる。2011年、2012年、2013年は準備期間。

2014年決算が債務超過の場合→2016年のライセンスは付与されない。

2014年、2013年、2012年の3期連続赤字は2016年のライセンスは付与されない。